

災害の足跡から辿る～私たちの足元に眠るリスク（地理×地学）

場 所：学習室2D

日 時：令和7年7月7日（月）4限

クラス：3年1・4・5組（選択）地理探究

クロス教科：地理探究×地学

スタイル：TT方式

目 的：地理的な技能を活用して、地理と地学のかかわりの深い地形・地質から地域がもつリスクについて分析・考察することを目的とする。

	教師の発言・指導	学習活動	備考	問題・改善点,良い点
導入	名古屋大学2024年前期日程入試問題で出題された地形図から、想定される自然災害は何か、考えさせる。	「河川の氾濫」と挙げる生徒が多いので、そのほかの事例はないか地理院地図で、想定される災害、リスクを読みとる。	地形図に河川があるので、河川の氾濫を想定するが、液状化現象などその他にも想定される災害があることに気づかせる。	地形図を見るときに、一つの視点にこだわらず、様々な視点からみることを意識させることができた。
展開	①液状化現象についての説明	液状化現象の起こりやすい場所の条件の説明を受け、実際にエキジョッカーで、液状化現象のメカニズムを学ぶ	礫や砂が堆積する場所で液状化現象が起きやすいことを理解させる	エキジョッカーを活用したことで、生徒の興味・関心が高まった。
	②熊本地震で液状化現象が起きた地形はどのようなところか。	地理院地図の治水地形分類図で、熊本地震で液状化現象が起きた地形の特徴についてグループで調べる	河川の中・下流域にみられる旧河道や氾濫平野で液状化現象が多く起きていること気づかせる	複数の資料を見比べなければならなかったため、戸惑う生徒が多かった。
	③鹿本高校周辺で液状化現象の危険性はあるか。	地理院地図で鹿本高校周辺の地形分類を調べ、液状化現象の危険性の有無についてグループで話し合い、発表する。	危険性の有無について、①②のグループ活動で学んだことを活用して、考察する。	生徒が着目した場所によって、液状化現象の危険性の有無が分かれた。発問の最初に、着目場所によって解答が変わってくることを生徒に伝えることが必要であった。
まとめ	過去の災害が起きた地形や地質を地形図や地理院地図のようなツールを用いて学ぶことで、様々なリスクを想定できるようになることを理解させる。	本授業を受けて、過去の災害から何を学び、その学びをどう活かしたいかを考える。		